



【先週 6月20日～6月26日の外食の出来事】

■外食閉店 1.9 倍の 5230 店 20 年度、リーマン危機上回る

日本経済新聞が実施した 2020 年度の飲食業調査によると、閉店数が 5230 店に達したことがわかった。19 年度の 1.9 倍に達しただけでなく、リーマン危機時の 08 年度(3859 店)も大きく上回る。

■梅の花、政策投資銀行らから 30 億調達 肉の直売所を店舗に併設

梅の花が、日本政策投資銀行のDBJ飲食・宿泊支援ファンドと西日本シティ銀行に対し、第三者割当増資としてA種優先株式を発行し、20億円を調達。また、商工組合中央金庫から10億円の資本金劣後ローンで10億円を調達。

■一家D、博多劇場は休業続ける 酒19時で2人まででは合わない

株式会社 一家ダイニングプロジェクトは、居酒屋業態の「屋台屋 博多劇場」と「こだわりもん一家」の東京エリアを中心に大半の店舗をまん延防止等重点措置期間である7月11日(日)まで休業させる。

■きちり、政策金融公庫から 7 億劣後ローン 自己資本比率を改善させる

株式会社きちりホールディングスが、日本政策金融公庫から資本金劣後ローンで 7 億円を調達した。借入期間は 10 年間で、無担保・無保証。一部を自己資本に組み入れることが可能で自己資本比率が改善する。

■ゼンショー、コロナ後見据え海外出店加速 300 億円調達

ゼンショーホールディングス(HD)は日本政策投資銀行(DBJ)から約 300 億円を調達する。資金の大半を海外を中心とする出店費用に充てる。新型コロナウイルスのワクチン接種が進む地域で牛丼店や寿司店の出店を加速す

■出前館の最終赤字 215 億円に、21 年 8 月期 投資が重荷

料理宅配大手の出前館は、2021 年 8 月期の連結最終損益が 215 億円の赤字になりそうだと発表した。新型コロナウイルス禍でサイト利用が増えるものの、事業拡大に向けた広告宣伝費や人件費が増える。

■壱番屋の純利益 5 倍の 12 億円、3～5 月期 客足が回復

カレー店チェーンの壱番屋が 25 日発表した 2021 年 3～5 月期の連結決算は、純利益が前年同期比約 5 倍の 12 億円だった。新型コロナウイルス禍で国内外の客数が急減した前年同期からの回復が鮮明だ。

■店舗流通ネット、焼肉「ふたご」と投資型 FC 加盟者を募集

店舗リースの店舗流通ネット株式会社が、「大阪焼肉・ホルモン ふたご」(国内 79 店舗・海外 5 店舗)を展開する株式会社 FTG Company と新しい投資型・フランチャイズモデルの提供を始める。

■外食なお苦境続く 5 月売上高 20%増、19 年比は 20%減

日本フードサービス協会が発表した 5 月の外食売上高は前年同月比 20%増え、2 カ月連続で増加した。新型コロナウイルス禍前の 19 年 5 月比では 20%減っており、外食産業の苦境は続く。